

## 【クラブ活動報告】

### ひとり親困窮家庭に食料支援

#### 和歌山アゼリアロータリークラブ

長引くコロナ禍で時短や失業などにより経済的に厳しい状況に置かれている乳幼児から高校生のお子さんがあるひとり親家庭に食料支援をと昨年度(2021~2022)青少年奉仕事業として計画しましたが、コロナ感染者が治まらない中、実行を断念せざるを得ませんでした。

当クラブのモットーは、私達の地域が災害に見舞われたり、災厄が降りかかったりした時は、何を置いてもまず罹災したわが地域の人々に手を差し延べなければならない、地域ファーストがわがクラブの奉仕の原点です。

その理念の下に2022~2023年度の梅田会長を先頭にわがクラブの創立25周年記念奉仕事業にしようとして決定し取り組むことになりました。記念奉仕事業にすることにより予算が大きくなりました。

新米3t(5kg/家庭)、図書券(文房具購入可)、乾麺、レトルトカレーなど計5,000円相当の品を600個お配りすることになりました。まずひとり親家庭に広報するのに和歌山市にお願いし、ひとり親家庭児童扶養手当更新に来られる受付カウンターの横に引換券付きチラシを置かせてもらって、この事業をお知らせしました。食



料の運び込み、袋詰め作業、そして10月8日~10月11日の食料手渡しへとクラブが一丸となって、会員のほとんどが携わりました。

この事業の終了後日、母子家庭のお母さんからメールが届きました、「このたびは、ご支援いただきありがとうございました。仕事、育児、コロナ禍のストレス、自分の時間もなく日々の生活の疲れから、心も身体も疲れ果てていました。支援の品を子供と開けて、とてもうれしく喜んでいきます。(中略)最近、色々に対して限界がきていました。皆様のあたたかい心に触れ、また頑張っていきます。名前も名乗らず失礼しました。本当にありがとうございました。」(原文通り)

この一通のメールで一同苦労も報われた思いです。少しの食料ですが、明日への希望を持ってほしいものです。

この感動を忘れず、次なる奉仕に繋げよう!

[和歌山新報](#)、[テレビ和歌山ニュース](#)に掲載されました。

